

IMAGINE  
THE  
FUTURE.

## 附属大塚 学校だより

本校は、世界最高水準の知的障害教育を目指します。

## ～教室の窓から～

5月の運動会が終わり、各部の様々な学習が始まっています。幼稚部では、毎日「集まり」の楽しい歌声が聞こえてきます。先日は、後楽幼稚園の園児と交流会が行われていました。小学部では、1学期に宿泊学習を行なっています。早速、そら組は、静岡県富士市にある「富士山子どもの国」や「サファリパーク」に行ってきました。明日からは、はな組つき組が都内で宿泊学習を行います。小学部段階からの宿泊行事を通して、児童は自立に向けた生活指導や生活経験の拡大を図っています。中学部では、生徒の教育的ニーズに応じた「グループ学習」や「選択学習」が始まりました。今週は「英会話」の授業があり、ALT（アシスタントランゲージティーチャー）が全て英語で授業を進めていました。高等部は、先週、第1次現場実習壮行式が行われ、高等部2年生、3年生が先週から様々な事業所で実習を行っています。



中学部「英会話」の授業

## ～今年度の研究テーマ～

1908年（明治41年）以降の東京教育大学附属小学校（第五部）や、その後の附属中学校（特殊学級）で取り組んできた特殊教育の先進的な実践を基に、本校が開校したのは今から55年ほど前の1960年（昭和35年）です。そして、開校以降、本校が最も大事にしてきたものの一つは、知的障害のある子どもに、いつ、何を、どのように教えていくのかの探求です。そのための具体的な取り組みの一つとして整理した「経験内容表」（1959年昭和59年）は、本校卒業までに経験させたい内容を示したもので、当時まだ学習指導要領がなかった時代の先駆的な研究として意義あるものでした。その後、様々な研究課題に取り組みながら知的障害教育の教育課程や指導法の研究を蓄積し、現在の「個別教育計画」、「学習内容表（旧経験内容表）」、大塚モデル「指導計画集」の3つのツールからなるパッケージを結実しました。

このような中、昨年度から3年計画で、「みんなでつなぐ「個別教育計画」」という研究テーマを掲げ、本校独自の理念に基づく「個別教育計画」の機能と運用について再考することになりました。本校「個別教育計画」の大きな特徴は、本校教育課程に示す「学校として各部段階でどのような力を身につけるか」という内容に応じて整理した計画ではなく、一人一人の発達特性や障害特性を踏まえた「教育的なニーズ」と「本人（保護者）の願い」に基づいて整理された計画であることです。

2年目となる本年度は、「願い」と授業のつながり、さらにはその「願い」を確実に引き継ぐ「計画」の移行のあり方について協議していきます。小学校中学校の新学習指導要領には、平成20年の改定以降、特別支援学校で義務付けられている「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」の作成が新たに明記されました。平成11年から「個別教育計画」の研究に取り組んできた本校は、今後、小学校中学校高等学校に向けても、その成果を発信していきます。

※本校「個別教育計画」は、学習指導要領に示された「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」両方の機能を持たせています。一般に「個別の指導計画」は、各教科等における指導の目標、「個別の教育支援計画」は、他機関との連携支援に活用される長期的な計画です。

## 本校の「合理的配慮」～その2～

運動会では、様々な「合理的配慮」に基づく、子供にとっての「わかりやすさ」を支えるツールを活用していました。本号では、プログラムや活動の見通しをもたせるために工夫したいくつかの実践を紹介します。

開閉会式のプログラムを貼付したボードから進行に合わせて紙の表示を剥がしていくKさん。見通しを持たせるためのツールを操作することによって活動の機会が増え、他者に評価される機会も増えました。



「合理的配慮」は個人に対する配慮ですが、「基礎的環境整備」は、誰にとってもわかりやすく環境を整えることです。投てき板の表示は、今は何の種目が一目でわかるようにしています。



本校では、様々な場面で音声ペン（Gridmark社）を使用しています。小学部つき組では、プログラムにイラストと音声ペンのドットコードシールを貼り、いつでも確認できるようにしていました。



音声ペンの使用は「競技を見る」ことが「確認する」という主体的な学習に変わります。この「確認する」活動は「見通す」ための支援を超えて「楽しむ」活動に広がります。



小学部はな組では、紅組も白組もホワイトボードにプログラムを提示していました。競技ごとの表示にマグネットシートが貼付されており、競技が終わると、子供達は表示を外していきしました。



「見て！今、これ！」子供達は、楽しみながら今の競技を確認する様子が見られました。こちらのツールでも、一つ一つの表示に音声ペンのドットコードシールが貼付されていました。



見通しを持たせるツールは、同時に気持ちを落ち着かせる（情動調整）ツールでもあります。Kさんは運動会のプログラムが順番に印刷された手のひらサイズのカードを見ながら次の活動を確認しています。



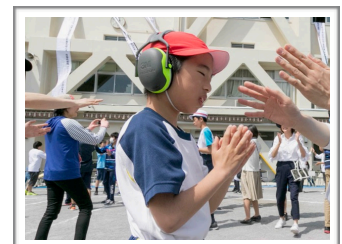
このカードは、活動が終わるたびに、担当がハサミでカットしていきます。手元のカードがなくなっていくので、残りの活動が一目でわかります。Kさんはこのツールがあることで安心して参加していました。



大きな音が苦手なEさん。リレーでは、BGMが流れるスピーカーの前で立ち止まってしまうそうです。でも大丈夫。、Eさんの出番ではナレーションもBGMも音を消して声援を送ります。子供の力を発揮する環境を作ることも合理的配慮の一つです。



ダンスが好きなEさんですが、大きな音が苦手。全校ダンスではイヤーマフをつけて参加しました。行事に限らず、Eさんは必要な時に自分からイヤーマフを被って学習に参加しています。大切なことは、本人が必要な時に使用できる環境を作ることです。



## 「合理的配慮」と「意思の表明」

「合理的配慮」は個人の権利です。支援者である教師や保護者に求められることは、個に応じた「わかりやすさ」を工夫することに終始せず、それを本人が「権利」として「私はこの支援が必要です」と「意思を表明」できるようにすることです。高等部では、集団活動場面での緊張感が高く、行事への参加が難しい生徒がいます。本人の意思を確認しながら行事への参加の仕方を考えるのも「合理的配慮」の一つです。言葉を持たない子供達にとっても本人の意思を尊重することが大切です。子供の権利を擁護する立場にある私たちは、言葉による表現がなくても、日々の充実した笑顔や主体的な姿から、「願い」として受け止め、代弁することが大切です。



## 熱中症予防について

運営委員会で熱中症予防について確認しました。毎日の職員朝会では、環境省熱中症予防情報サイトで本日の「暑さ指数(WBGT)」予測を確認し、全職員に注意喚起を行います。

授業中は、以下のことに十分配慮して学習を行います。①「暑さ指数」が高くなることが予測される場合は、熱中症モニター(2個所有)で屋内外の「暑さ指数」をこまめにチェックする。②十分な休息・休憩と水分補給をする。③授業時間を調整する。④全てのクラスが学級費でお茶を購入し、水分補給を行います。

【お願い】水筒持参について、幼稚部小学部は、担任にご相談ください。中学部高等部は、毎日持たせてください。

また、特に中高等部では、汗拭きタオルと着替えを持たせてください



## 6月16日(土)は教員免許更新講習

教員は、10年毎に教員免許を更新するために教育の最新情報や自らの専門性を高めるための講義や演習を受講しています。筑波大学附属学校群は、「附属学校実践演習」を開講しており、全国でも数少ない参加型の講習を行なっています。この日は中学部と高等部の授業を参観できます。

## 6月の予定

1日(金) 高等部第1次現場実習  
(2年・3年)

※5月29日(火)～8日(金)

4日(月) 高1年進路校外学習②

※特例子会2社の見学

5日(火) 幼稚部後楽幼稚園交流

6日(水)～7日(木)

小はな組つき組

宿泊学習(江東区)

8日(金) 第1次現場実習終了  
高1年進路校外学習③

※通勤寮、就労継続B型事業所、グループホーム等の見学

中国広西幼児師範高等専科  
学校視察研修(午後)

11日(月) サロン・ド大塚

12日(火) ミニ避難訓練

「ライフキャリア学習」(高)

1班:特養老人ホーム洛和ヴィラ文京春日出張カフェ

13日(水) 発育測定スマイル(高)

にこにこ広場④(幼)

作業保護者会(高)

14日(木) 発育測定スマイル(中)

作業見学会・保護者会(中)

15日(金) 授業研究日(幼中)

学校休業(小高)

16日(土) 登校日(月曜日課)

免許状更新講習

学校参観日

18日(月) 振替休業

19日(火)～個人面談開始

21日(木) 第1次現場実習報告会

22日(金) 附属小学校交流会(小)

校外学習②(高尾山:中)

体育校外学習(筑波大:高)

25日(月) 学校評議委員会



